

[12] 日向市小体連

(学校数13校 児童数3,407人)

I 年間事業

実施日	事業名	主な内容	会場
7月21日(火)	第1回理事会	役員選出 年間計画 研究の進め方について	日知屋小学校

II 事業部のあゆみ

1 陸上大会(新型コロナウイルス感染拡大のため中止)

- (1) 大会名 第50回日向市小学校陸上大会
- (2) 実施日 令和2年11月6日(金)
- (3) 会場 大王谷陸上競技場
- (4) 出場者 日向市内小学校6年生全児童(532名・小規模校は5年生児童含む)
- (5) 実施種目 ○ 走り高跳び ○ 走り幅跳び ○ 50mハードル走
○ 短距離走(100m) ○ リレー(100m×4名)
○ 長距離走(男子1000m、女子800m) ○ ソフトボール投げ
- (6) 競技方法 ・選抜での出場はリレーを除き、1人1種目とする。
・「走」競技は、スタンディングスタートとする。
・靴は、普段体育で使用する運動靴とする。
・その他細部については、日向市小学校体育連盟による競技規則を適用する。

III 研究部のあゆみ

1 研究主題

確かな知識・技能を身に付けた児童の育成
～体力及び競技力向上の実現を目指して～

2 研究目標

体育科学習において、「わかる」、「できる」という実感から進んで運動に取り組み、確かな知識・技能を身に付けた児童を育成する。

3 研究仮説

小学校の体力向上プランで課題となった種目について、各学校で教材教具の活用や学習環境の工夫をした取組を行えば、児童が主体的に学習にかかわり、伸び悩んだ記録を伸ばすことができるであろう。

4 研究計画

研究年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
研究内容	○ 体力向上プランを基にした体力の課題分析と対策の検討	○ 前年度に分析及び検討した取組の実践及び体力の変容の調査	○ 研究のまとめ ○ ポスターセッション

5 研究の実際

(1) 前年度に分析及び検討した取組（立ち幅跳び・ボール投げ）の中から1つを選択し、各校の実態に応じて取り組んだ。

(2) 各学校での実践例

実施内容	ボール投げ																																							
指導内容 または 手立て等	<ul style="list-style-type: none"> ○ フォームロケットを用いて、投射角度や投動作用意識した練習を取り入れた。 ○ ドッジボールや大面子を用いて、力強く投げる練習を取り入れた。 ○ 野球経験者を中心に、児童間で投げるコツの教え合いを促した。 																																							
成果	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学年</th> <th colspan="2">9月</th> <th colspan="2">12月</th> </tr> <tr> <th>男子</th> <th>女子</th> <th>男子</th> <th>女子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>9 m</td> <td>5 m</td> <td>12 m ↑</td> <td>6 m ↑</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>13 m</td> <td>8 m</td> <td>14 m ↑</td> <td>9 m ↑</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>14 m</td> <td>10 m</td> <td>16 m ↑</td> <td>11 m ↑</td> </tr> <tr> <td>4年</td> <td>17 m</td> <td>11 m</td> <td>20 m ↑</td> <td>14 m ↑</td> </tr> <tr> <td>5年</td> <td>16 m</td> <td>10 m</td> <td>20 m ↑</td> <td>10 m</td> </tr> <tr> <td>6年</td> <td>27 m</td> <td>14 m</td> <td>31 m ↑</td> <td>16 m ↑</td> </tr> </tbody> </table> <p>（値は小数点以下を切り捨てた平均値である。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1～6年生の男女において、12項目中11項目で記録の向上が見られた。 ○ 教具を活用したことで、興味をもって進んで取り組む姿が多く見られた。 	学年	9月		12月		男子	女子	男子	女子	1年	9 m	5 m	12 m ↑	6 m ↑	2年	13 m	8 m	14 m ↑	9 m ↑	3年	14 m	10 m	16 m ↑	11 m ↑	4年	17 m	11 m	20 m ↑	14 m ↑	5年	16 m	10 m	20 m ↑	10 m	6年	27 m	14 m	31 m ↑	16 m ↑
学年	9月		12月																																					
	男子	女子	男子	女子																																				
1年	9 m	5 m	12 m ↑	6 m ↑																																				
2年	13 m	8 m	14 m ↑	9 m ↑																																				
3年	14 m	10 m	16 m ↑	11 m ↑																																				
4年	17 m	11 m	20 m ↑	14 m ↑																																				
5年	16 m	10 m	20 m ↑	10 m																																				
6年	27 m	14 m	31 m ↑	16 m ↑																																				
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年間で体力差が逆転している学年があるので、それを縮めるために体育の授業で投能力を高める運動等も補助運動として取り入れる必要がある。 ○ 投能力の向上が期待できる遊びを考案し、授業だけではなく昼休み時間でも、児童が自主的に体力向上を図ることができる環境を整えていく必要がある。 																																							

実施内容	立ち幅跳び												
指導内容 または 手立て等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全校で、月ごとに立ち幅跳びの県平均記録を目標にした取組を行った。 ○ 学級ごとに県平均記録を越えた児童数を集計し、職員に結果の周知を行った。 ○ 児童には、立ち幅跳びのポイントをおさえながら取り組ませた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">【立ち幅跳びのポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふりこのように、大きく腕をふる。 ・ 後ろから前にふり出すタイミングで跳ぶ。 ・ ひざを抱え込むようにして、足を前に着地する。 </div>  <ul style="list-style-type: none"> ○ 運動場に立ち幅跳び練習場を設置し、気軽に跳運動に慣れる環境を整えた。 												
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全校での立ち幅跳びの県平均達成人数は、5月の251人から7月の275人になり、向上した人数が24人増えた。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>達成人数</td> <td>251人</td> <td>250人</td> <td>275人</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>57%</td> <td>57%</td> <td>62%</td> </tr> </tbody> </table>		5月	6月	7月	達成人数	251人	250人	275人	達成率	57%	57%	62%
	5月	6月	7月										
達成人数	251人	250人	275人										
達成率	57%	57%	62%										

	○ 特に、1年生の記録の向上が著しく見られた。		
	5月	6月	7月
達成人数	30人	50人	58人
達成率	41%	68%	74%
	○ 6月～7月にかけて、昼休みに立ち幅跳び練習場で遊びながら、練習に取り組んでいる児童が増え、主体的に運動に親しむ意欲が見られた。		
課題	○ 授業の準備運動や昼休み時間等に取り組んだが、記録の測定に時間や人員が必要なため、気軽に取り組めるような工夫が必要である。		
	○ 立ち幅跳び練習場にビニールテープを張って取り組ませていたが、大雨や児童が使っていくうちにほどけてくるため、その都度補強が必要であった。設営方法の改善をさらに図る必要がある。		

6 成果と課題

(1) 成果

- 教材教具の活用や学習環境の工夫をした取組を各学校の実態に合わせた取組などを実施したことで、児童が苦手種目の記録を伸ばすことができた。
- 場の設定や学習過程の工夫を充実させたことで、多くの児童が運動遊びに楽しみながら取り組む姿が見られた。
- 各学校で継続した取組をすることで、運動技術の向上が見られた。

(2) 課題

- 新体力テストで他に伸び悩んでいる記録を伸ばすために、各校の実態に応じた取組を実践していく必要がある。
- 今回の取組に関わらず、体力向上を目指した継続的な取組を行う必要がある。
- 今回の実践で記録が低下した児童や伸びが見られなかった児童への継続した指導を行っていく必要がある。

IV まとめ

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響のため、日向市小学生陸上大会及び各校での体育的行事、水泳学習をはじめとした体育の授業も中止または制限された。そのため、十分に体力の向上を図ることができなかつたと考えている。したがって、日向市小学校体育連盟の取組を体育主任中心に、各校の職員に確実に周知及び実践を促すことで、体力の向上を図ることができるようにしたいと考えている。また、今年度の取り組んだ内容以外にも課題がないかを追求し、各校が連携して体力の向上に努めるようにしていきたい。